

さて、次は周囲の家臣団の屋敷跡を見てみよう/ここは神橋近くにある穴山玄蕃頭信君の屋敷跡





穴山玄蕃頭信君屋敷跡

穴山玄蕃頭信君屋敷跡
穴山玄蕃頭信君屋敷跡
穴山玄蕃頭信君屋敷跡

穴山玄蕃頭信君
穴山玄蕃頭信君
穴山玄蕃頭信君

穴山玄蕃頭信君屋敷跡

穴山玄蕃頭信君屋敷跡

穴山玄蕃頭信君屋敷跡

信玄・勝頼を
補佐した一族



甲府市観光ホームページ



あなやまげんぼのかみのぶきみ 穴山玄蕃頭信君

(天文十年～天正十年六月二日)

穴山氏は、甲斐源氏の支流で、穴山を本拠地にしつつ、河内領(南巨摩郡一帯)を支配した強豪。信君は、穴山信友の子で、生母は信玄の姉南松院殿、正室は信玄の息女見松院殿であり、極めて重用されたことがわかる。永禄元年(一五五八)ごろより、父信友に代わって穴山家の取り仕切り、同三年十月に父が死去すると、正式に家督を相続した。穴山家当主となって、最初に経験した大合戦が、永禄四年(一五六二)の川中島の戦いで、この時は武田軍本隊の左翼を守っていた。信君は、今川氏とも親交が深く、信玄の今川攻めに際しては、今川家臣の調略を担ったという。長篠の合戦で、山県昌景が戦死したため、駿河江尻城主に就任し、織田・徳川・北条三氏の圧力を防いだ。武田氏滅亡の際は、織田・徳川氏に降伏し、武田氏の再興を夢見たが果たせないまま、本能寺の変に巻き込まれて死去した。

発掘調査中のようだ



ここは大手門周辺ゾーン の南側にある高坂弾正忠昌信の屋敷跡





高坂弾正忠昌信
高坂丹正忠昌は、徳川幕府の重臣として活躍した。その功績は、幕府の発展に大きく貢献した。この地は、彼が屋敷を築いた場所とされている。彼の肖像画がここに掲げられている。

高坂弾正忠昌信屋敷跡

信玄の寵臣で

『甲陽軍鑑』

の作者



甲府市観光ホームページ

高坂弾正忠昌信

(大永七年〜天正六年六月十四日)

高坂弾正の名で知られるが、実際には香坂弾正忠虎綱、後に本姓に戻って春日虎綱と称している。石和の老百姓春日大隅の子で、天文十一年(一五四二)に信玄に見いだされて近習となり、その後使番を経て、天文二十一年(一五五二)に足輕大将に抜擢された。翌年には小諸城代に、永禄三年(一五六〇)ころ海津城代に任命されるなど、異例の出世を遂げた。高坂弾正は、川中島の豪族を指揮下に置き、上杉謙信の南下に備えた。永禄四年の川中島の戦いなどで活躍した。天正三年の長篠の戦いで、山県・馬場らの宿将が戦死したことに危機感を覚え、信玄の言行や行動哲学などをまとめた書物を書き上げ、勝頼の側近達に贈ったといい、これが『甲陽軍鑑』の原本とされる。天正六年(一五七八)の謙信死後、上杉景勝と勝頼の同盟交渉役を担ったが、実現しないまま病没した。

そこから北方向に大手門周辺ゾーンを見たところ/この付近では家臣団の屋敷跡も発掘されているようだ



さて、最後に武田信玄ゆかりの積翠寺を見よう/前方右手に説明坂が立っている



田信玄和漢連句

良純親王墨跡・硯箱・煙草盆

指定年月日

昭和四十六年十月八日（市指定）

所在地

甲府市上積翠寺九八四番地

所有者

積翠寺

臨濟宗妙心寺の本寺、要害城の南麓に位置し、古く石水

山、本尊は釈迦如来を安置する。寺伝々、開山を行基、甲斐

硯石の第...。また、武田信玄の誕生した寺とも言

には産湯井戸や産湯天神がある。

年（一五四六）信玄は、後奈良天皇の勅使として、甲斐に

田大納言実澄・四子中納言季遠と東光寺鳳栖・法泉寺湖月の

数名を当寺に迎へ、和漢連句を催した。この時の一巻が本寺に

家宝として現存している。

五・七、五の和句と呼ばれる和歌と漢句と呼ばれる五言の

連歌の一種であり、当時流行した知的な遊戯であった。信

玄を積極的に移入したことや、武芸とともに文芸化し関心が

なく和歌や漢詩の優れた作者であったこと、示す貴重な

御陽成天皇の第八皇子であるため、宮とも呼ばれた。

（一六四三）罪を得て甲州湯村に流罪となり、ついで下積翠

寺に移り、十二年、まらに三珠町の草寺に五年を過す。

帰洛した。興因寺にいた時積翠寺にまたたびを訪れられた

常受用された硯箱と煙草盆が当寺に伝わり、また

和歌・色紙など親王自筆の墨跡が一通あり、保存されて

往時かしのはれる遺品である。

十二年三月

甲府市教育委員会

右手は機山武田信玄公誕生之寺 と彫られた石碑



これは不動堂らしい/右手に説明板、左手に石碑が立っている



積翠寺由緒

此寺は臨濟宗妙心寺末にして行基菩薩の開創による跡
倉時代曼窓国師の弟子竺奎じくろう和尚中興開山なり
大永六年（五二二年）

福島兵庫乱入の節飯田河原の合戦信虎夫人当寺に留
り期に臨み一男子を産むこれ即ち信玄なり境内に信玄
の天神煮湯の井あり堂西に磐石あり古く八九尺泉こ
れに激して沸となるより石水寺の井名になり村名に
なると申陽軍鑑に伝う積翠寺名園は曼窓国師の坐庭あり
寺室に信玄像及び天文十五年後奈良天皇の勅使として
下向せられし三條四辻二卿と拙寺にて催せられし信玄
公の和漢联句一連並に良純王親王より仰岩和尚に贈ら
れし書簡等々現存す

「武田不動尊 信玄公像 毘沙門天」と刻まれた石碑



不動堂の中には「寺宝 信玄公像」が鎮座する



アップで見たところ



さて、本堂の裏手に廻ると一寸した庭園がある



その右奥を見ると「信玄公産湯の井戸」があった



信玄公産湯の井戸

大永元年（五三年）飯田河原の合戦の時、信虎夫人（大井夫人）は戦乱を避け、当寺に留りて信玄を出生したのである。その時産湯に使った井戸です。



これがその井戸



境内にはさまざまな石造物があった



その背後を見ると前方に甲府市内が見える



これは境内の右手に見える武田氏の詰城の要害山城跡のある要害山



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/008yamanashi/053tsutsuiigasaki/tsutsuiigasaki.html>

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Lake/4393/yamanasi/kouhusi.htm#tutuji>

<https://akiou.wordpress.com/2014/08/02/tsutsuji-ga-saki/>

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/shingenkou-no-machi/tsutsuiigazaki.html>

<http://www.zephyr.dti.ne.jp/bushi/siseki/takedaji.htm>

<http://www.pcpulab.mydns.jp/main/takedajinja.htm>

<http://www.geocities.jp/qbpb900/tutuzigasakiyakata.html>

<http://ss-yawa.sakura.ne.jp/menew/zenkoku/shiseki/chubu/tutujigasaki.j/tutujigasaki.j.html>

<http://www.uraken.net/museum/castle/shiro15.html>

